

ます。

高さは1～4mになります。開花期は晩冬から早春にかけてで、直径10～15mmの白い花を咲かせます。花弁は5枚です。蜂により受粉されます。枝は、濃い茶色をしています。

花後にできる青紫色の実は、直径10～15mmくらいで、スローと呼ばれ、ジャムやピクルスにしたり、ジンに入れてスローベリー酒として利用されています。スローベリー酒は民間療法で、お腹の調子を整えるために利用されています。

MATERIAL

若い枝

AFFINITY

*Prunus spinosa*は、主に神経系（とくに眼、呼吸器系）、膀胱、女性生殖器、眼などに作用します。右側優勢レメディです。

CLINICAL APPLICATIONS

臨床では、頭痛や片頭痛、眼の痛みを利用されることがあります。

■神経系

- ・頭痛、片頭痛：通常痛みは右側から始まります。
- ・神経痛

- ・歯痛：歯が浮いた感じや緩む感じがします。歯をくいしばると痛みが楽になりますが、温かい食事を摂ると悪化します。

■眼

・視神経帯状疱疹

- ・眼の痛み：毛様体神経痛など、破裂するかのような痛みや、突き抜くような鋭い痛みを眼球に感じます。とくに右眼。眼球がスローベリーの実が大きく実るように、外へ押し出されるような感覚を伴うことがあります。右の耳介に始まる痛みが、眼に広がることもあります。

・緑内障

■泌尿器系

- ・膀胱炎、尿道炎：膀胱の有病性痙攣があり、夜眠れないことがあります。体を二つ折りにすると少し楽になります。尿道に焼けるような感覚があり、頻回に尿意を催しますが、なかなか尿が出ないこともあります。尿道が狭くなり、糸のように細く排尿します。

MODALITY

- 体を二つ折りにすること、休息、涙など
- 患部の圧迫、触られること、運動、夜、温かい食事（歯痛）など

Psorinum 疥癬 [かゆみ]

Serous fluid from scabies lesions

BACK GROUND

疥癬（scabies）は、ヒゼンダニ *Sarcoptes scabiei* var. *hominis* という非常に小さなダニが、皮膚の角質層内に寄生して起こる皮膚感染症です。一般名の Scabies は、ラテン語の scabere（かきむしる）に由来します。

疥癬虫の大きさは雌の成虫で0.4mmくらいです。卵は2～5日で孵化します。幼虫は脱皮を繰り返し、若虫を経て1、2週間ほどで成虫となります。雄の成虫は、体長0.2mmと小さく、雌を探し求めて雌よりも活発に動き回ります。交尾後、雄はまもなく死にますが、雌は角質層内に1日約2mmずつトンネルを掘り、毎日2～4個の卵を産み続け、4～6週間生き続け

ます。乾燥と低温に弱いので、人間の皮膚を離れて床に落ちた疥癬虫は、通常の室温、湿度下では数日（平均36時間）で死ぬといわれています。人肌の温度でないと動作が鈍くなり、37℃だと1分間に2.5cm動くといわれていますが、人体を離れると動作が鈍くなり、16℃ではまったく動かなくなってきました。卵は人体から離れても、10日前後生存可能です。

皮膚の接触によって感染するので感染性が高く、世界中で見られ、すべての民族に感染しています。古代バビロニアの時代から知られており、数千年の人類の歴史に影響を与えてきた病気です。ナポレオン時代の戦争で、疥癬の流行がフランス軍の戦意を失わせたことは有名です。





疥癬症は、感染してから2週間から約1か月の潜伏期間があって発症します。疥癬の多量寄生例では、その潜伏期間は短くなる傾向があるようです。感染初期は成虫が少ないため、約1か月の無症状期を経て症状が出現します。最初は、腹部や大腿部などの皮膚に赤い発疹が現れ、やがて、腕の内側、脇の下、手指、外陰部など、軟らかいところを中心に発疹が広がっていきます。また、一度治って、2回目、3回目の感染では、感染後1か月経たずにすぐかゆみが出てきます。

症状は、赤色丘疹や小水疱、膿疱が、激しいかゆみを伴って全身に多発し、とくに夜間に布団の中で体が温まったときに、かゆみが強まります。疥癬虫は角質層内を移動するので、疥癬トンネルと呼ばれる丘疹から、灰白色の3～7mmくらいの線状皮疹ができるのが特徴的です。男性では、陰嚢に赤褐色のしこりがよく見られます。非常にかゆいので体中に引っかき傷ができ、これらの傷はときどき細菌感染を起こします。

疥癬症には、2つのまったく異なる臨床病型があります。1つは通常疥癬と呼ばれ、文字どおりふつうによく見る疥癬で、ヒゼンダニの寄生数は身体全体で1,000匹以内です。ふだん元気で免疫力のある人に、かゆみの強い赤い丘疹が全身各所に見られる病型です。

もう1つは角化型疥癬またはノルウエー疥癬と呼ばれ、100万～200万匹ものダニが1人の患者に寄生する状態になることがあります。通常の疥癬と原因は同じヒゼンダニですが、寄生された人の免疫力の低下（たとえば、加齢や病気などが原因）によって発症します。皮膚に灰白色のカキ殻のような厚い角質増殖が起こり、触るとポロポロと剥げ落ちます。その痂皮の内側には大量のダニが付着しています。全身状態もさらに悪循環で悪くなり、やせてきて、うつ状態に陥っていきます。また、ブドウ球菌や連鎖球菌による2次感染もよく見られます。

MATERIAL

疥癬に感染した人の治療前の皮膚の水疱病変から内溶液を採取して滅菌し、純水に希釈したものを原料とする Nosode です。

FIRST PROVING

ハーネマンは、疥癬の感染は、より深い疾患によるものと考え、マヤズムの1つにしています。このレメディは、1831年にHeringが、再びブルーピングを行うまでは公表されていませんでした。

MIND

Psorinum タイプは、やせていて体力がなく、免疫力が弱いために細菌やウイルスに感染しやすい体質です。顔色もよくありません。皮膚の状態も悪く、いつも汚らしく見えます。お腹がよく空きます。

寒さに非常に弱く、常に温かくしている必要があります。とくに病気になると、寒さで悪化します。一度治癒した病気が再発してしまうのも、寒い時期が多いようです。

CLINICAL APPLICATIONS

Psorinum は、生命力や免疫力が低下した場合の皮膚、消化器系、呼吸器系をはじめとする各種疾患に適用されます。また、過去に抑えられていた深い病変、根本的な生命力の欠如や深い精神的な問題などにも使用されます。

■皮膚

- ・ 皮疹：強いかゆみを伴います。かゆみは夜に悪化し、ベッドの暖かさや温めすぎで悪化し、出血するまで掻き続けてしまうことがあります。かゆくて睡眠不足になることがあります。
- ・ 真菌症、白癬：皮膚や爪
- ・ 細菌性皮膚炎
- ・ 疥癬
- ・ 皮膚潰瘍
- ・ いぼ：皮膚は乾燥肌か過度の脂性肌かどちらかです。

■呼吸器系

- ・ 鼻咽頭炎：よく再感染します。季節による周期性があるものといふものがあります。寒さや冷たい飲料で悪化します。
- ・ 鼻のポリープ
- ・ 再発性気管支炎：とくに寒い時期に再発する傾向があります。呼吸困難や疲労感があり、横になって休息すると楽になります。
- ・ 花粉症

- ・喘息：運動や寒さで悪化します。寒い時期に症状が強くなります。

■消化器系：夜や妊娠中などにお腹が空きます。

- ・便秘：とくに幼児
- ・下痢
- ・過敏性腸症候群

■感覚器

- ・外耳炎、中耳炎：悪臭のする分泌物を伴います。
- ・耳介の湿疹：不快な分泌物を伴います。
- ・麦粒腫：痛みがあり、黄色い膿を伴います。
- ・慢性感染性眼疾患

■精神神経系

- ・うつ状態：悲観的で将来に望みがなくなってしまう。貧困や個人的な失敗、癌、将来などを怖れます。病気になっても回復しないのではないかと恐れ、絶望感にとらわれてしまうことがあります。夜になると心配で、落ち着かなくなります。自殺を考えることもあります。
- ・片頭痛：周期的に起こります。空腹や皮膚症状の抑圧、すきま風、外気などで悪化します。頭は常に温かくしておく必要があり、温かい時期でも帽子を被っています。頭痛のときにお腹が空くことがあります。

す。

- ・坐骨神経痛
- ・不眠症

■一般状態

- ・体重減少：食欲はあっても、ゆっくりとやせていきます。ときに真夜中でもお腹が空いて、何か食べずにはいられなくなることがあります。
- ・疾患からの長引く回復、治癒の遅延：衰弱や寒気、体重減少などの症状があり、なかなか回復できません。

MODALITY

- ☞ 暑さ、温かい服、夏、頭を下げて横になること、食事中、コーヒー、鼻血、休息、患部の強い圧迫、多量の発汗など
- ☜ 寒さ、外気、気候の変化、隙間風、絶食、化膿、擦ったり、引っ掻くこと、右下に寝ること、歩行、運動、冬、夜、真夜中前、朝の散歩、嵐の前、満月など

RELATIONS

- ・ Complementary：Sulphur

Ptelea trifoliata ホップノキ [肝臓疾患]

Ptelea trifoliata L.

BACK GROUND

Pteleaは、北米原産のミカン科の低木、ホップノキです。この植物の苦味のある実は、かつてホップの代用品として使われていたことがあり、ホップノキと言われているようです。実際のビールに使われているホップは、クワ科の蔓性植物です。

一般的には、Wafer ash, Swamp Dogwood, Shubby Trefoil, Wingseed, Hop Treeなどと呼ばれています。

学名のPteleaは、ギリシア語のpteleaニレの木という語に由来します。これはこの植物の実が、ニレの木の翼果と似ているためです。種小名のtrifoliataは、この植物の葉が3枚1組になっていることに由来します。

Pteleaは、高さが1.5～2.5mくらいに生育します。葉は前述のとおり3枚組で、若葉は明るい黄色で、

しだいに薄い緑色になります。花後の種子も丸い翼果に包まれています。

この植物の根の皮は、民間薬として薬用に利用されています。消化不良、衰弱、発熱性疾患、関節リウマチなどに使われています。

この根の皮に含まれる主な有効成分には、レジン、バーベリン、アルギニン、コウマリンなどがあります。

MATERIAL

若い枝の樹皮

FIRST PROVING

Hale (1856)

AFFINITY

Pteleaは、主に肝臓、胆嚢、消化管、呼吸器系、皮